

オレンジ通信 Vol.22

ささき 佐々木まゆみ市議会活動レポート

2018年4月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

「心の復興実現」を常に忘れず 福祉・女性政策等身近な課題に 全力で取り組みます。



平昌オリンピック・パラリンピックが閉幕し、世界中のアスリートの懸命にプレーする姿から溢れんばかりの勇気と感動を頂きました。

中でも、フィギュアスケート男子シングル仙台出身の羽生結弦選手のオリンピック2連覇という大偉業には大きな感動と共に、たくさんの勇気を頂きました。今後の復興に向けて力強いエールを頂いたと感じています。

決して忘れることの出来ない7回目の3月11日を迎えました。被災者の生活再建やインフラ整備が着実に進む一方で、震災の風化が進んでいるのも紛れもない事実です。生活再建と同時に心の復興へ向けた取組は少しも弛むこと無く進め続けること

が重要です。全ての被災者が一日も早く日常生活を取り戻し、「人間の復興」を成し遂げるまで公明党は被災者に寄り添い続け、復興加速に全力を注いでまいります。

平成30年第一回定例会は3月14日に終了し、郡市長が就任し初めての新年度予算に関する質疑を行いました。公明党仙台市議団が推進してきた、産後ケア事業の導入や不妊に悩む方への特定不妊治療費の助成拡大、また、医療用ウィッグの助成導入など新年度予算に盛り込まれました。今後も、皆様の声を市政に届けてまいります。

仙台市議会議員 佐々木まゆみ

※羽生結弦選手のパレードが4月22日に開催されることになりました。

ささき 佐々木まゆみのプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。

平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。

現在2期目。

【仙台市議会】市民教育委員会副委員長。

防災・減災推進調査特別委員会副委員長。



女性の視点を大切に 当事者の立場に立った政策を推進。

医療用ウィッグ(かつら)購入助成/
ダブルケア(子育て・介護の両立)/
子育て支援等、重要課題に取り組む。

平成30年第1回定例会
予算等審査特別委員会(3月5日・6日)

医療用ウィッグ(かつら)購入費の助成 が実現しました!

【佐々木まゆみ議員】来年度よりスタートする「第二期いきいき市民健康プラン後期計画」に基づき、新規事業として、がん療養者支援、医療用ウィッグ購入費の助成に621万6千円計上されました。

これまで何度か訴えてきた事案でもあり、評価させていただきます。予算の内訳をお示し下さい。

【健康政策課長】がん治療に伴い、医療用ウィッグを購入された方に、2万円を上限に助成するもので、助成額として600万円、事業周知のためのチラシ作成費が21万6千円です。

【佐々木まゆみ議員】一人2万円ですから、300人の方を対象に助成されると、病院はもとより市・区役所等でのチラシの配布等情報提供の周知広報が大事です。いち早く市民の皆様にお知らせするための今後のタイムスケジュールを伺います。

【健康政策課長】区役所・総合支所や市内の「がん相談支援センター」等で配布する他、市政だよりやホームページで周知する予定です。

【佐々木まゆみ議員】抗がん剤治療を受けるがん患者にとって、副作用で起きる脱毛は深刻な問題です。眉毛の脱毛、皮膚や爪の変化等による外観の変化はストレスとなり、日常生活に支障をきたします。表皮のごく浅い部分に色素を入れる「マイクロピグメンテーション」と呼ばれる特殊な技術で眉毛を描くケアメイクがあります。今後このケースに関しての助成の必要性も強く要望させていただきます。

育児と介護のダブルケア対策の充実を!

【佐々木まゆみ議員】平成28年に内閣府において育児と介護のダブルケアの実態に関する調査が行われ、全国で約25万人の方が子育てをしながら介護を行うダブルケアを行っておられる実態が明らかになりました。

年齢構成を見ると、30歳から40歳代が最も多く、全体の約8割を占めています。本市としても今後実態調査をし、身近に相談できる体制づくりの構築を図るべきと考えますがいかがですか。

【介護保険課長】育児と介護の双方に課題を抱えた方への対応にあたり、子育て・介護のどちらの窓口で相談をお受けした場合でも、個別の状況に応じて両方の担当課が同席するなど、連携して対応を行っています。その上で相談内容に応じ、専門機関への照会やチームアプローチによる支援等に繋げている状況です。

【佐々木まゆみ議員】大阪府堺市では、平成28年全国に先駆けて全7区の区役所に「ダブルケア相談窓口」を設置し、複数の分野に関わる課題を抱えた人が、適切な相談を受けられる体制を整えました。本市においても、ダブルケア世帯への適切な支援ができるよう、コーディネート役を果たす職員の育成や、包括的な支援体制の構築を検討すべきだと考えますが、本市の見解を伺います。

【保険高齢部長】本市では育児・介護それぞれの窓口で対応できているものと認識しているが、今後の少子高齢化の進展に伴い、育児と介護の双方を担う方が増えそれに対応した専門的な支援も必要になってくると考えられます。より効果的な支援となるよう他都市の事例も参考にし取り組んで参りたいと存じます。

子育て支援の拡充が決定!

【佐々木まゆみ議員】新年度、助産師が育児相談や交流支援を行うサロン(仮称)助産師サロンを全区の「のびすく」で開催することになりました。今後のスケジュールをお伺いします。

【子供保健福祉課長】各区「のびすく」において、それぞれ年6回の実施を予定しています。開始時期は助産師会やのびすくと協議し、周知方法はのびすくチラシやホームページ、市政だより等を活用していきます。

【佐々木まゆみ議員】不妊に悩む方への特定不妊治療費助成の拡充もされました。既に国の制度に基づく助成がありますが、本市独自の助成制度の仕組みをお示し下さい。

【子供保健福祉課長】本市はこれまで国の制度に基づき、初回の治療に30万円、2回目以降は治療方法によって15万円あるいは、7万5千円を上限に助成してきました。新年度予算においては、2回目の治療の一部について本市独自に、5万円の助成額をさらに上乘せし、2回目の治療に踏み出しやすくしたものです。

【佐々木まゆみ議員】指定医療機関は現在県内に6ヶ所あります。患者さんにとっては、予約が取れない、他県で治療を受けている等のお声もあります。更なる指定医療機関の拡大が急務と思いますがいかがでしょうか。

【子供保健福祉課長】特定不妊治療の実施医療機関は、高い技術の基に十分な理解と倫理観を持って対処できることが求められます。本市としては、この度の制度拡充と合わせて、医療機関に協力を呼び掛けて参ります。

観光対策の更なる充実を

【佐々木まゆみ議員】昨年2月に観光庁が実施した「訪日外国人旅行者の国内における受け入れ環境整備に関するアンケート」において、旅行中最も困ったこととして「施設等のスタッフとのコミュニケーションがとれない」が上位でありました。観光案内所職員向けの研修会や意見交換会、また、宿泊施設等への語学研修はどのように推進されているのか伺います。

【東北連携推進担当課長】観光案内所の運営管理者、スタッフ等を対象として、合同研修会を6回開催し、100名を超える方々に参加頂き、各案内所の取り組みや課題を共有するとともに、インターネットテレビ電話を活用した広域観光案内やタイムリーな情報の共有の手法を学びました。また、多数の外国人観光客が来訪し、全国の観光案内を展開する東京の観光案内所において実地研修を行い、先進的な観光案内の方法や案内所運営についても学びました。スキルの向上については、東北運輸局が開催する語学研修などを紹介し、各人の研鑽を促して参ります。

外国人向け観光案内所の認定制度について。

【佐々木まゆみ議員】外国人旅行者に対して観光案内所のサービスの充実度の見える化を実施すると同時に外国人旅行者にPRするとし、認定によるブランド化と観光案内所のカテゴリー別の分類により、外国人観光案内所の機能

向上を促進し、質を保証する、認定制度があります。

カテゴリーが3つあり、カテゴリー1「地域情報の交流拠点であり電話通訳サービス等により英語対応ができること。」カテゴリー2「次の目的地への橋渡しができ、英語で対応できるスタッフが常駐し、広域の観光や交通の情報提供ができる。」カテゴリー3「観光案内のゲートウェイとして、英語を含む3言語以上での対応ができ、全国の観光や交通の情報提供ができること。」とあります。本市としての認定制度への取り組み状況はいかがでしょう。

【東北連携推進担当課長】仙台駅2階「仙台市観光情報センター」、藤崎本館「仙台ツーリストインフォメーションデスク」、「秋保温泉郷観光案内所」、「仙台国際センター交流コーナー」の4カ所の観光案内所が、カテゴリー2の案内所として認定を受けています。

【佐々木まゆみ議員】今後は、積極的にカテゴリー3を目指し人材の確保、人材育成を進めるべきと考えます。

【佐々木まゆみ議員】東北の観光は、全国的なインバウンド急増の流れから大幅な遅れをとっております。仙台は東北・宮城のゲートウェイでもあります。2020年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その前年にはラグビーワールドカップが開催されます。これらの大会は東北の観光及び認知度向上を図るには絶好の機会です。本市としての今後の取り組みへのご決意をお伺いいたします。

【伊藤副市長】東北の観光復興のためには、東北一体となって、更なる取り組みが必要であると考えます。また、2020年というのも大変チャンスの大い年です。仙台市としては、東北のゲートウェイ都市として、来年度観光案内所のネットワークをさらに10都市拡充し、より広域での受け入れ環境を整備するとともに、東北観光推進機構等との東北一体となったプロモーションを展開することにより、多角的な取り組みを推進し、東北の観光復興を力強く進めて参ります。



佐々木まゆみ日々の活動



羽生選手のお祝いのつり看板が市役所に掲示されました。



祖父母手帳

昨年2月の予算特別委員会にて必要性を求め、本年1月より各区役所・支所で配布されており、孫育ての昔と今や、遊び方など掲載されております。是非、ご活用ください。



盲導犬

だれもが快適に生活できる地域づくりを目指して、公共施設や交通機関はじめ飲食店やスーパーなど、様々な場所に行くことができます。普及啓発に努めてまいります。



みやぎアピール大行動実行委員会の申し入れに立会いました！



東日本大震災から7年



中学校・小学校 卒業式